



令和2年10月号 Vol.36  
情報メディア教育センター

### 恐竜の足跡”

恐竜の足跡化石って不思議だと思いませんか？  
恐竜がやわらかい泥や砂の上を歩くと足跡が残ります。  
できた足跡の上に砂や泥がたまり、足跡は消えて  
なくなったかのように見えます。しかし、一億年以上の時間がたつて、砂や泥は石になり、板のように重なった砂や泥の地層を一枚一枚慎重にはがしていくと、太古の恐竜足跡が姿を現わすなんてことがあるのです。



私達の足跡も何億年かしたら残るでしょうか。



### 選書というお仕事

毎月、カウンター前のタワー書架に新着図書を並べています。私たち司書が悩みながら本を選んでいます。選んだ本を借りてもらえると、とてもうれしいのですが、渾身の選書が、なかなか手に取ってもらえず悲しくヤリキしない時もあるんです。

そこで今回は、毎月毎月私たちが、一冊でも手に取ってもらえるように試行錯誤している選書の様子を、ちょっとご紹介したいと思います。

まず入れたいのは話題の本ですね。ベストセラーや賞を取った本、映画の原作なども気になりますよね。例えば、どの本が良いのか、新聞の書評を見たり、書店に行ったりして調べることもあります。

香港問題・SDGs・コロナウイルスについての本等々、ニュースでよく見かけるちょっと難しい時事問題についても分かりやすい本を選ぶようにしています。



また、特に理系の本や地理の本はデータなどが新しくなるものは順次買いたい本です。そうそう、それと、旅行ガイドブックなんかもね。先日、このお店素敵と思ってネットで調べたら出てこなかった。移転？閉店？…残念！なんてことがありました。

私達司書の中ではよく「動く本」という言い方をしますが、これはよく借りられるという意味です。このようなジャンルの本を選書したりすることもあります。書架が汚れている所は良く利用されているという証拠なのでこのあたりの種類の本に目を付けることもあります。まるで探偵みたいですね。

先日、よく本を借りに来てくれる生徒さんが、最新号が出たよと教えてくれました。こんな情報もすごく参考になります。

また、EMCでは本のリクエストも受け付けていて、読みたいけれどない本があれば私達司書に言ってください。キビシ〜イ審査(笑)を経て購入しますよ。リクエストしてくれた本はいちばんに借りることができます！

カウンターに来てくれる人たちの話をよく聞いて、みなさんに最適な本を選んでいきたいですね。



### 新着図書ピックアップ



#### 『植物のすさまじい生存競争』

田中 修【著】

最近、クズカズラの蔓が大きな木を覆いつくしている姿をよく見かけます。また、セイタカアワダチソウの猛烈な繁殖が見られます。私たちは、食べられる植物なら大切にしますが、必要ない植物は、その場から追い払おうとします。静かに暮らしているような植物たち。しかし、植物たちの世界に一步踏み込むと、厳しい生存競争が、繰り広げられています。この本では、生き残り、子孫を残すための力を秘めている植物の真の姿をたくさんの図や写真を交えて解説しています。(尾崎)



#### 『二つ、三ついわずれたこと』

ジョイス・キャロル・オーツ【著】 神戸 万知【訳】

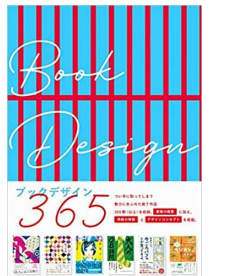


「海外文学は苦手…」、「あまり読んだことがない」という人、この本なんかいかげでしよう。表紙はかわいいけれど、ストーリーは少し痛くて脆い。アメリカ文学版「住野よる」。家庭と学校がすべてという閉塞感、憧れていた同級生の死、親たちの無理解…諸々の壁を悩みながら乗り越えていく、そんな大人社会の入り口に立った少女たちの葛藤と成長を描いています。ラストは希望もあります。(大塚)

#### 『ブックデザイン365』

パイ インターナショナル【編著】

最近の本はどれも装丁が美しく見ているだけで楽しくなります。思わず手に取りたくなる美しいデザインの本を、その内容をとともに紹介しているのが本書。中にはEMC所蔵の本もかなり入っています。気に入った装丁を見つけたら本の中身も読んでみよう。こんなのを「ジャケ買い」ならぬ「ジャケ読み」というのかな。みんなのひとめぼれはどの本でしょう。(大塚)



#### 『すみません、金利ってなんですか？』

小林 義崇【著】



大人になったらわかると思っていたら…。  
「日経平均株価とは？」「信用金庫とか信用組合とか、銀行の種類がわかりますか？」「国債＝国の借金を買うってどういうこと？」といったことや、「4、5、6月に残業すると、社会保険料UP」「NISAで株の利益が非課税に」等々。生活するなかで抱いた疑問の数々、意外と説明できないお金の話を、とてもわかりやすく解説。まだ早いと思っている若い人に、ぜひ読んでもらいたい一冊です。(尾崎)

新着ピックアップは毎月、司書が「これはぜひ読んで！」と思う本を選びすぐってお届けします。

上記以外にも新着図書がたくさん届いています。カウンター前の新着コーナーをご覧ください。



『多動力』

堀江 貴文【著】



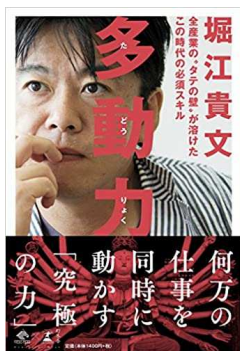
そもそも、「多動力」って!?

「いくつかの異なることを同時にこなす力のこと」つまり、一つのジャンルにとらわれずに生きている人のことです。著者は、「堀江貴文」ホリエモン。実業家であり、作家、投資家、タレント、YouTuber。まさに、多動力を体現している方です。

過激な発言などでSNSが炎上することもしばしば。正直この本も、共感できない箇所もありました。しかし、時代の先を行く、現状を打破してきた人の考えは非常に説得力があります。

日本には「石の上にも三年」のことわざがあるように、日本人の常識から考えると、一つの事を一生かけてコツコツやり続けることが美しいと一般的（私もその一人）に考えられているので、それとは対称的な「多動力」は現状世間から受け入れ難い状況にあります。

本書で、寿司屋の修行を例にコツコツ頑張るという修行や下積みが、今では意味を持たなくなりました。と著者のホリエモンは言います。寿司職人といえば、“飯炊き3年握り8年”という言葉がある通り、修行は10年以上かかると言われています。しかしながら、インターネットの発達によって情報技術は広く共有されたことにより、ホリエモンの友人の寿司職人は最低限の知識だけを学び出し、その翌年にミシュランの星を獲得した職人がいるようです。このように、現代そして未来において「石の上にも三年」というのは過去の言葉になるかもしれません。私たちの生活は、インターネットの発達によって、劇的に変化しました。今もなお進化し続けています。インターネットの発達により今後多くの職種が淘汰（機械に代替）されると言われています。新たに生まれる職種もあるでしょう。今、想像もしなかったモノがお金を生む時代です。You Tubeなんか良い例です。先の読めない未来を生き抜くためには「多動力」は必要な力なのかもしれません。最後に、各章の末尾に「やってみよう！」リストが載っており、ただ本を読むだけでなく実際に行動することがすすめられています。自分の好きな事を見つけ、好きな事だけをして生きていく人生にしませんか。



第31回 紀平 詞久先生おすすめ

『名前探しの放課後』 辻村深月【著】

ある夕方、依田いつか君は屋上でポーッと景色を見ていた。「あの看板の店は、たしかつぶれて最近看板は外されたはず…。」携帯を見て彼は3か月前にタイムスリップしたことに気づく。そしておぼろげな記憶…「3か月後クラスメイトの誰かが不幸な道をたどる。」自分はその名前を思い出せない「誰か」を救うために過去に戻されたのかもしれない…。高校を舞台にした青春探偵ストーリーと、怒涛の伏線回収で鳥肌のラスト！

※お薦め本はリレー連載です。次のバトンはどなたに渡るかな？

10月の開館予定

Table with 3 columns: Day, Date, and Hours. Shows opening hours for October from Monday to Sunday, including closed days (休館).

Reuse Book Fair



The Early One Wins!!

セブンティーンやメンズノンノなど EMC の雑誌のバックナンバーや小説、赤本、などなど差上げます。

無料です！タダです！どんな本が並ぶかお楽しみ…お早めに

2020.10.5~10.9/EMC 2F



まだ早い? いやいやそんなことない? 「働く」ってこと、ちょっと考えとく?

将来の夢は? 就きたい仕事は? と聞かれたら、あなたはなんと答えますか? 「そんなこと聞かれてもわからない」という人には将来のことを考えるヒントに、「心の中にあこがれの職業がある」という人には、その夢にさらに一歩近づくために、こんな展示してみました。すこし先を見つめて、視野を広げ、自由に、将来をスケッチしてみよう。夢ややってみようと思う仕事は途中で変わってもいいのです。



「なるには Books」って知っていますか? 仕事いろいろ40冊! 「そうか、こんな仕事もあるか!」と、現代社会の多彩な職業について、その仕事の魅力・現実から、なり方まで幅広く紹介するシリーズです。気になる職業見つけたら、次に気になる「なるには、どうする?」に答えてくれますよ。実際にその仕事に携わる方のお話も載っています。「夢」を膨らませるのは情報であり知識です! 現実を知ることからはじめよう。

「働く」ってしんどーい?! ドキュメンタリー&お仕事小説 読んでみよう。『オレたちバブル入行組』など半沢直樹シリーズをはじめ、『帝国ホテルの不思議』(ホテルマン)、『境界をこえる』(建築家)、『パンのペリカンのはなし』(パン職人)、『トクカン』(国税徴収官) などなど、ドキュメンタリーからお仕事小説まで。



そりゃ仕事だから大変なことも、へこんじゃう時はいっぱいあるけれど、頑張っていればたまにはいいこともある。そこが素敵なのだ、「働く」って。

図書館からのお知らせ 中間審査期間中は開館時間を延長します (~18:50)。いつもグループスタディルームの予約はすぐに埋まってしまいます。使用日の一週間前から予約できますのでお早めに。

編集後記 先生も時々ハマる、カウンターの「日替わりクイズ!」ご存じですか。今は「読めそうで読めない漢字」なんですが、100回超えたのでそろそろシリーズ変えようかな? って言っていました。次は何にするのかな。(大家)

